

第100回研究会の開催にあたって

(社) 情報処理学会

データベースシステム研究会主査

増永良文

情報処理学会に「データ・ベース研究会」が発足したのが昭和48年で、以来21年が経過いたしました。同研究会は昭和52年に「データベース管理システム研究会」、同57年に「データベース・システム研究会」そして平成4年に現在の「データベースシステム研究会」と名称を変更しつつ、今般研究会登録会員数500を越える情報処理学会で屈指の大研究会に発展しています。近年は年5回の研究会、年に一度の「アドバンスト・データベースシステム・シンポジウム」およびその併設セミナー、そして「データベースワークブック刊行WG」と「情報検索システム評価用ベンチマークデータベース構築WG」を設置して活動は多彩になっています。国際的にはDASFAAやDOOD, FODOなど、本研究会が深く関わり国際的に立派に育っている国際会議があります。また、本研究会は1977年と1986年に日本で開催されたVLDB国際会議に多大の貢献をいたしました。この間、電子情報通信学会に「データ工学研究会」が設置され、昨年ACM SIGMODの日本支部も設立されましたが、本研究会はこれらの組織とも協調して日本のデータベースシステムの研究・開発・運用に幅広く対応しています。

今回第100回研究会を開催できることは、これまで本研究会に対し惜しみのない貢献をしてくださった先人達の弛まないご努力のお陰と熱く御礼申し上げます。また今回の研究会をACM SIGMOD日本支部、画像電子学会メディア統合技術研究会との共催、電子情報通信学会データ工学研究会の協賛を得てそれを開催できることは大いなる慶びとすることです。

データベースシステムは高度情報化社会を支える基幹システムであります。それはマルチメディア化、オブジェクト指向化、超並列化、オープン化、ネットワーク化といった様々な要請に応えつつ今後益々その重要性が増大することは火を見るより明らかです。これまで本研究会を影に日向に支えてくださった実に様々な方々、そして常に温かく研究会活動を扱ってくださる情報処理学会事務局の方々に心よりお礼を述べたいと思います。これからも皆様の倍旧のご支援をお願いして、ご挨拶といたします。